

ふるさとファイル

展示コーナーだより
第 15 号
平成 16 年 2 月
長岡京市立図書館



宮座の行事～久貝地区～

近年、わたしたちの日々の暮らしから伝統行事が徐々に消えつつありますが、市内には古くからの様々な民俗行事を現在に受け継いでいる地区があります。今回は久貝地区を中心に宮座の行事が時代にあわせ変化していく様子を紹介します。

展示期間 2月4日(水)～3月31日(水)



小倉神社の宮座

神社祭祀に奉仕する氏子集団を一般に宮座といい、小倉神社の氏子圏では御座(おざ)と称される宮座が村ごとに組織されています。

宮座の主な行事は年番制で務める当家と宮年寄が主体となって行われています。宮年寄は座により人数が異なりますが、座の年長者が務め、その最年長者を一老といいます。宮年寄は終身制ではなく、一、二年ごとに一老から順に脱会していきます。

以前は座への加入は座株(ざかぶ)を保有する家の当主や長男に限られ、それ以外の家は加入できないのが原則でしたが、昭和に入ってから規制も緩み、村内分家であれば加入できるようになりました。



小倉神社の氏子地域

大山崎町円明寺に鎮座する小倉神社は、円明寺(山寺を含む)・下植野・調子・友岡・下海印寺・金ヶ原・神足(一部)・古市・久貝の各村を氏子としています。

これらのうち神輿が円明寺と友岡に一基ずつあり、神輿に關与する円明寺・下植野・調子を右座、友岡・久貝・神足・古市・下海印寺・金ヶ原を左座と称しました。



宮座の運営

宮座の運営費には当家や宮年寄が負担するほかに、田や山など座が保有する共有財産から得られる小作料、あるいはその売却代金が充てられていました。また、左座の神輿にかかる費用は左座の氏子全戸に均等に賦課され、各氏子村で徴集されました。

どの宮座にも宮座の諸経費や共有財産の管理など、運営に関する帳簿が残っています。



変化する伝統

宮座で行われる行事が当時の情勢にあわせ変化しながら現在に受け継いでいる様子が各宮座に残る規約などを通じて知ることができます。

明治から昭和にかけての度重なる戦争の結果、国民が一致協力して節約する運動が全国的に推進されていきます。この地域も例外ではなく、久貝では明治 44(1911)年に「座中協議之上」規約改正が行われて供物や御膳の数が大幅に減らされ、下海印寺では「大東亜戦争必勝体制ニ順応スル為」に規約が改正されています。

戦後、昭和 30(1955)年から始まった生活の合理化・虚礼廃止などを目的とした「新生活運動」の影響でさらに行事が簡略化され、その時の規約が久貝の宮座に今も残っています。



宮座の行事

宮座における主な行事は、5月に行われる小倉神社の祭礼と「宮座御供」です。「宮座御供」は各座の当家が準備した神饌(しんせん)を、毎月決められた順番に小倉神社に献供する行事のことで、昭和 30 年代から次第に簡略化し、現在は供物に替えて御供料を供する場合があります。



🌸 茎座(3月第1日曜日)

茎とよばれる大根の漬け物を献供することからこの名がついた。上の写真は太幣神事の模様。



🌸 戸渡し(3月第1日曜日)

茎座終了後、御神体を祀った祠、「神事不浄之者立入禁」と書かれた立て札などをもって、次の当家宅へ。



🌸 久貝の「オコナイ」(1月)

牛王宝印を刷り、ゴオサンを作る。ゴオサンはオコナイの後、座員すべてに配られる。

久貝においても小倉神社へ供物を献上する「餅座」や「茎座」、次の当家へ神祠を送る「戸渡し」など、当家や宮年寄を中心とした行事が現在も行われています。

また1月8日前後には、久貝の宮座独自の行事として五穀豊穡を祈願する「オコナイ」が西光寺にて行われています。

小倉神社の祭礼や宮座の行事について、詳しくお知りになりたい方は民俗編・長岡京市史資料集成 2・京都古習志(キ:216.2)をご覧ください。

< 展示史料 >

小倉神社久貝宮年寄持ち回り文書より
小倉神社神輿係諸経費簿
諸事儉約二付契約規定(明治 44 年)
新生活運動二付改正規約(昭和 31 年)ほか